

お財布・地球・地域に優しい生活を！

食品ロス削減に向け、大量購入を控え、食品とお財布に優しく！

日本国内では、家庭やレストラン・食品製造メーカーなど食品関連事業者から、年間621万トンのまだ食べられる食品や食べ残しの食品が『ごみ』として捨てられており、これは『食品ロス』として大きな問題となっています。

貴方が今日出した「燃やすごみ」に、期限切れで手付かずの食品や食べ残しの食品が入っていませんか？

『**もったいない**』を合言葉に、次のポイントに注意して、食材を**無駄にごみにしない**ように気をつけましょう！



実践編へ

食材を使い切ろう！

手付かず食品の消費期限切れを無くすため、大量購入を控え、食材を使い切ろう。

外食も食べきりを！

宴会では、料理が残りがちです。さんまるいちまる「3010運動」を取り入れよう。

※「3010運動」… 宴会などの食事の際には、開始30分は席を立たず料理を楽しみ、宴会終了10分前に自らの席に戻り、再び出された料理を楽しむことで、手付かずや食べ残しの料理を出さないようにする運動です。



生ごみの水切りでごみ袋を軽くし、悪臭と地球温暖化を防ごう！

一般的には、『生ごみ』の重量の**約8割が水分**だと言われています。

貴方が今日出した「燃やすごみ」に、たっぷりと水を含んだ『生ごみ』が入っていませんか？

たっぷりと水を含んだ『生ごみ』は、「重く」て「臭う」など、デメリットばかり！『**ごみ袋に入れる前に、ギュッとひと絞り！**』を合言葉に、次のポイントに注意して、**ごみの軽量化、防臭**に取り組みましょう！



実践編へ

生ごみの水を切ろう！

少し絞ったり、乾かすだけでも十分効果的！水切りは地球温暖化対策にも！

※「水切りが地球温暖化対策？」… ごみの水分が減ると、清掃センターでのごみの燃焼効率が上がり、焼却にかかる燃料消費が減るため、CO2排出抑制につながります。

「その他のリサイクルできる紙」を集めて、地域に貢献しよう！

貴方が今日出した「燃やすごみ」に、『カレンダー』や『お菓子の箱』、『紙袋』、『米袋』など『**その他のリサイクルできる紙**』が入っていませんか？

そうした新聞やダンボール以外の紙も、立派な古紙としてリサイクルされています。地域で行われている古紙回収に出すことにより、ごみを減らせるだけでなく、古紙回収を行う自治会や子供会にとっても大きな収入につながります。

『**分ければ資源！**』を合言葉に、「その他のリサイクルできる紙」の分別に取り組みしましょう！自治会等が回収した「その他のリサイクルできる紙」は、**古紙回収業者が買い取る**とともに、町からも**回収実績に応じて補助金を交付**しています！



実践編へ

紙袋に入れて保管しよう！

紙袋にまとめて入れると、古紙回収の日に紙袋もいっしょに出せて便利です！

実践編

食品ロス削減に向けてできること

知識

食品には、開封せず、正しく保存した場合の期限として「賞味期限」と「消費期限」の2種類が表示されています。

賞味期限は、『おいしく食べることができる期限』

(スナック菓子、カップめん、ペットボトル飲料など、傷みにくい食品に表示されています)

消費期限は、『食べても安全な期限』

(お弁当、生めん、ケーキなど、傷みやすい食品に表示されています)

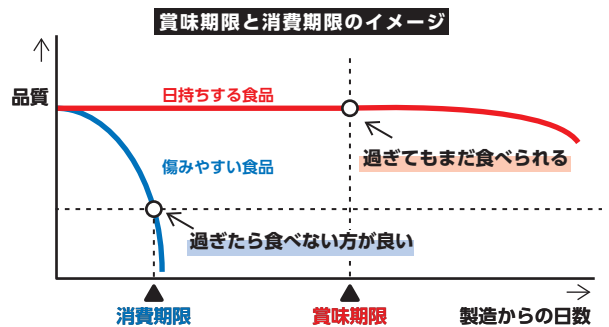
賞味期限を過ぎても下の図のようにすぐに食べられなくなるわけではありません。自分で食べられるかどうか、臭いや見た目で判断した上で廃棄するかを判断することが大切です。

実践1

手付かずのまま捨てることを防ぐため、買い物に出かける前には、冷蔵庫の中身をチェックして、必要な時に必要な量だけを購入するように心がけましょう！

実践2

食べ残しを防ぐため、調理の際は作り過ぎに注意しましょう！
もし作りすぎてしまった時は、別の料理に作り替えるなど、献立や調理方法を工夫しましょう。



生ごみの水切りについての心得

知識

生ごみの水切りにより、ごみの重量が減ることで収集車両の燃費が向上し、CO₂の発生が抑制されるなど環境負荷の低減につながります。

実践1

調理くずを濡らすと水分が多くなるため、濡らさないように心がけましょう。(キッチンタワーの使用等)

実践2

水分の多いごみは絞ったり、乾かしたりして出すよう心がけましょう。
※手で絞るのはちょっと・・・という方には、『生ごみ水切り器』の使用をおすすめします。
※水切りを行うことにより、臭いの発生も抑制されます。



キッチンタワー



生ごみ水切り器

古紙回収量を増やすために

知識

『新聞紙』や『ダンボール』などは古紙回収として出している方も多いと思いますが、ティッシュやお菓子の『空き箱』、『紙袋』、『ノート』、『封筒(窓空きも可)』、『チラシ』や『広告』、『カタログ』、『パンフレット』、『米袋』もリサイクルできるため、地域の古紙回収に出すことができます。

実践

サイズが小さく、紐などで縛りにくい場合は、雑誌に挟んだり、紙袋に入れたりすると手間が省けて、出しやすくなります。

